



2026年3月19日

各 位

会 社 名 株式会社ソリトンシステムズ  
代 表 者 名 代表取締役社長 鎌 田 理  
(コード番号： 3040 東証プライム)  
執行役員経営管理部長 三 須 貴 夫  
(TEL. : 03-5360-3801)

## 中期経営計画の策定に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、2026年12月期から2028年12月期までの3ヵ年の中期経営計画を添付のとおり策定いたしましたので、お知らせします。

### 1. 2028年12月期に目指す姿

「ニッチキングを脱し、DXの基盤を支える企業に」

### 2. 事業セグメント目標

- (1) ITセキュリティ事業：「認証」を軸に利便性を高め、次の成長ステージに
- (2) 映像コミュニケーション事業：映像伝送分野の深化とグローバル化の推進
- (3) Eco新規事業開発：アナログエッジAIチップのローンチ

### 3. 計画数値

	2025年12月期実績	2028年12月期目標	CAGR
売上高	197億円	245億円	7.4%
営業利益	28億円	50億円	20.6%
営業利益率	14.4%	20.4%	-
1株当たり当期純利益(*)	123円	184円	14.0%
自己資本当期純利益益率(*)	18.0%	20.0%	-

(\*)1株当たり当期純利益と自己資本当期純利益益率の算出にあたっては、株式数並びに為替は2025年12月末日を基準にしています。

### 4. 株主還元の基本方針

安定配当を継続し、利益成長に合わせ増配してまいります。引き続き、配当性向(連結)50%、株主資本配当率(連結)8.0%を目安とします。

以 上

Medium-term Management Plan

# 中期経営計画 (2026~2028)

株式会社ソリトンシステムズ

2026年3月19日

**Soliton**<sup>®</sup>

# 業績目標 (2026-2028)

## 成長戦略

# I 中期期間（2026～2028年）における外部環境変化の見通し

AI活用やデジタル化が企業活動の前提となる中、変化にどう適合し、強固なセキュリティと安全性を確保しながら、社会のDXを支える存在へ進化できるかが重要になる

## 外部環境（2026-2028）

### 労働人口減少

2030年問題を見据えた省人化・自動化圧力。セキュリティ人材の不足深刻化。

### 経済安全保障

米中対立や地政学リスクの継続。半導体サプライチェーンの強靭化が必須。

### AIトランスフォーメーション

生成AIの実装フェーズへ。DXからAX（AI Transformation）への深化が加速。

### 法規制の強化

サイバー攻撃被害に対する経営責任の明確化や、データプライバシー規制の厳格化。

## ITセキュリティ

- AIによるサイバー攻撃の高度化と加速
- ゼロトラストの“本格運用”フェーズへ移行
- SASE(Secure Access Service Edge)の需要拡大
- PQC(ポスト量子暗号) ※の早期対応
- AX (AI Transformation) に伴うセキュリティニーズ

## 映像コミュニケーション

- 遠隔監視・遠隔操作ニーズの拡大（労働人口減少・DX）
- 高精細・即応AI監視への高度化要請
- 公共安全領域における需要拡大
- ドローン市場拡大による映像伝送技術の重要性向上

## Eco新規事業開発

- エッジAIの急速な需要拡大
- AIブームによる半導体市場の構造変化（電力問題の深刻化）
- ドローン・ロボティクス市場の拡大

※ ポスト量子暗号のこと、量子コンピュータでも解読されにくいよう設計された、次世代の暗号技術の総称

# 2028年に目指す姿

## ニッチキングを脱し、DXの基盤を支える企業に

次世代の成長ドライバーへの投資 + 持続的利益成長の両立

高度な「認証技術」

映像伝送

半導体設計

売上高 245億円 CAGR 7.4% (FY26~FY28)

営業利益 50億円 CAGR 20.6% (FY26~FY28)

営業利益率 20.4%

国産の独創的技術と長年の実績と信頼を基盤に、ニッチな市場での高いシェアを獲得

実現して  
いきたいこと

安全で信頼できる  
情報社会の基盤に

多様な組織の  
ICT活用・  
DX推進の支援

リアルタイム・  
高画質映像による  
情報伝達の革新と  
現場支援

先端技術の創造  
による次世代社会  
インフラへの貢献

# 業績目標

3カ年で売上高の成長を図るとともに、投資事業の収益化をすすめ、高水準の利益成長を目指します

	FY25 実績	FY26 目標	FY27 目標	FY28 目標	CAGR
売上高	197億円	212億円	223億円	245億円	7.4%
営業利益	28億円	31億円	39億円	50億円	20.6%
営業利益率	14.4%	14.8%	17.5%	20.4%	-
EPS	123円	126円	144円	184円	14.0%
ROE	18.0%	16.9%	17.5%	20.0%	-

EPSおよびROEの算出にあたっては、株式数並びに為替は2025年12月末日を基準にしています

# 事業セグメント目標

ITセキュリティ事業はストックビジネス化を推進することにより、営業利益の成長率を14%に

	売上高（上段）・営業利益（下段）			成長概要
	FY25 実績	FY28 目標	CAGR	
<b>ITセキュリティ</b>	185億円 37億円	225億円 55億円	7% 14%	<p>「認証」を軸に 利便性を高め、 次の成長ステージに</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高シェアの認証製品群、セキュアアクセス製品群を中核に売上を拡大</li> <li>クラウドサービス化によりストック売上が増加、営業利益率も改善 → 11～16ページで説明</li> </ul>
<b>映像 コミュニケーション</b>	10.5億円 △1.1億円 ※	16.5億円 1.7億円	16% -	<p>映像伝送分野の深化と グローバル化の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公共市場でのシェア拡大</li> <li>遠隔操縦、海外事業の新規顧客の拡大</li> <li>売上増による収支改善 → 17～18ページで説明</li> </ul>
<b>Eco新規事業 開発</b>	1.9億円 △1.8億円	3.5億円 △1.6億円	22% -	<p>アナログエッジAIチップ のローンチ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アナログエッジAIチップのローンチ、量産化の整備</li> <li>投資事業の収益化による黒字化 → 19～21ページで説明</li> </ul>
<b>本社費用</b>	5.8億円 ※	5.1億円		

※ 2026年度よりセグメント損益の見直しを行う予定です。本社費用に含まれていた遠隔運転に関わる基礎研究が終わり、その技術を映像コミュニケーション事業に転用します。2026年度以降、当該開発に関わる費用は映像コミュニケーションセグメントに計上する予定です。今回は、2028年度との対比のため、開示した2025年度の実績に加減した数値をお示ししております。

# 長期ビジョンとその成長ドライバー

飛躍に向けた準備期間

飛躍のフェーズ Soliton 2.0

2031年

## 本中期経営計画

創立 50年

2028年

売上高 245億円  
営業利益 50億円

2025年

売上高 197億円  
営業利益 28億円

第2・第3事業の収益基盤の改善・強化

DXの基盤となる  
新たな価値の提供

セキュリティ

映像伝送

省電力  
半導体

事業基盤強化および成長に向けた投資  
(M&A等)

グローバルビジネスの推進

アナログエッジAIチップ開発投資

■ローンチ

■微細化

事業の柱に

R&D投資

■ITセキュリティ製品のクラウド化 および機能強化の推進

高付加価値化・高収益化

人的投資

■待遇改善

■教育投資

■AI活用

生産性向上

成長の礎に

# 人的資本投資に関する取り組み

## 従業員の給与水準の底上

- 平均給与 約13%up※  
(※ 2020年～2024年の対比)

## オフィスレイアウトの更新

- 本社ビルを中心に、オフィス環境の改善・更新を実施
- 多様な働き方に対応できるフリーアドレスの導入
- 社員用ラウンジを新設



## 人事評価制度の見直し・改訂

- 『Pay for Value』を反映する新評価制度の導入
- 新制度に対応した人事DXの推進

# 人的資本投資の推進

## 研究・開発に関する取組

- 開発Lab活動  
開発部門の業務時間の10～20%を新規開発・研究の時間に
- ライトニングトーク会  
部門を越えた自由参加型の情報交換コミュニティ

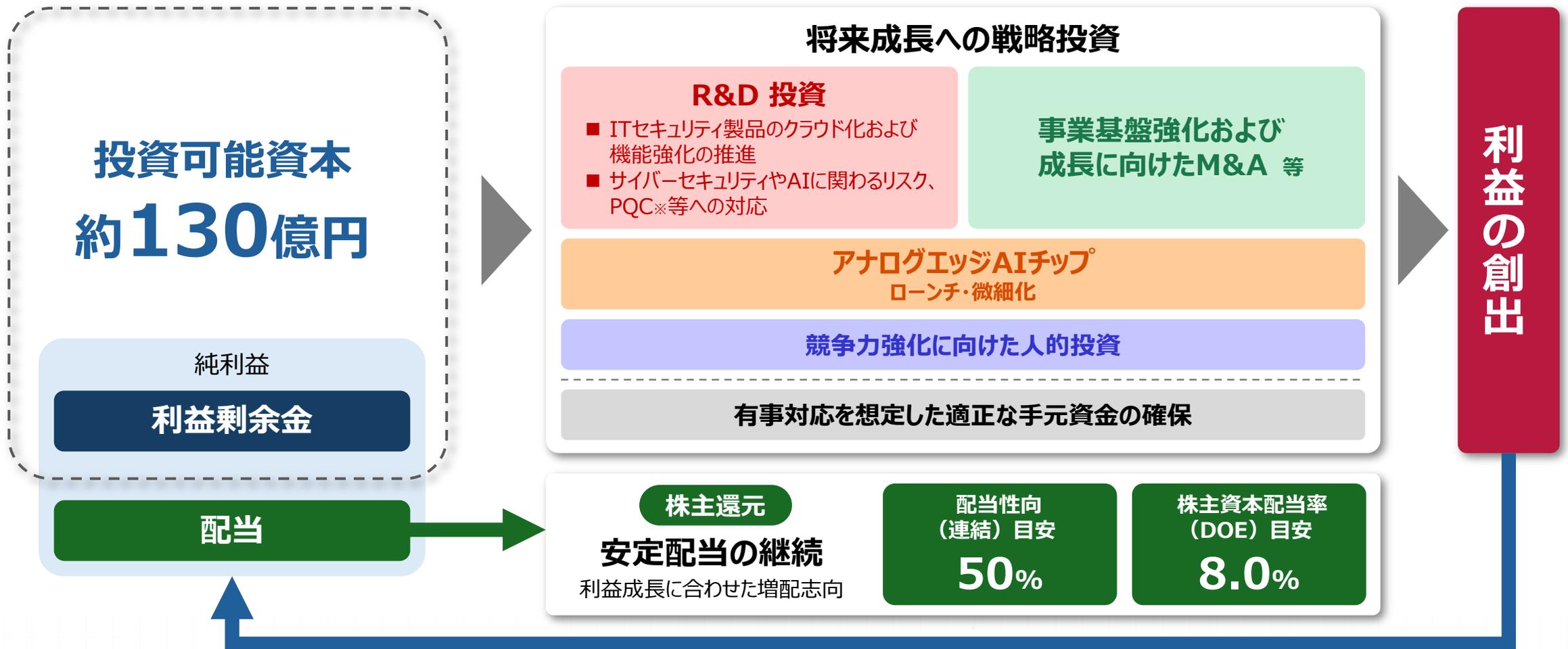
## ES推進に関する取組

- ES推進部門の新設  
社長直下のES推進部門を新設、健康増進、福利厚生の充実等、ES向上を推進
- 経営陣との直接対話の実施  
経営陣と直接、意見交換を行うタウンホールミーティングを全組織・社員を対象に実施
- 社員が活躍できる職場環境の整備  
「えるぼし」認定の取得など、社員が活躍できる、働きやすい職場環境の整備を推進
- 社員研修制度の拡充に向けた取り組み 等

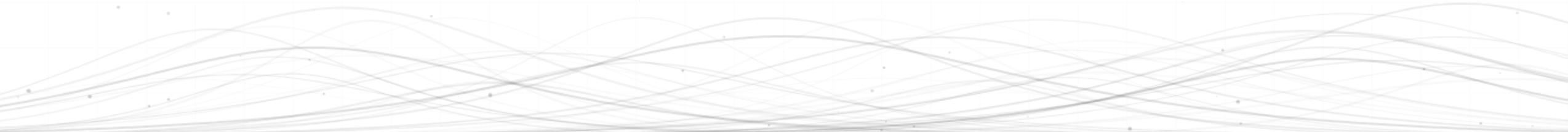
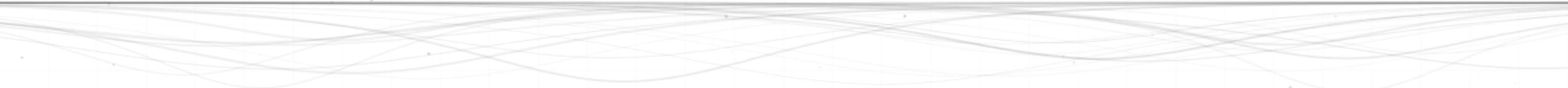


# Ⅰ キャッシュアロケーションに関する基本的な考え方

## 将来成長に向けた戦略投資の実施と安定配当の継続



※ ポスト量子暗号のこと、量子コンピュータでも解読されにくいよう設計された、次世代の暗号技術の総称



# 重点戦略

# 売上と営業利益の予測

主力製品のクラウド化によるストックビジネス推進により、収益の大幅な改善を図る

	実績 2025年	2028年	CAGR
売上高	185億円	<b>225億円</b>	<b>7%</b>
営業利益	37億円	<b>55億円</b>	<b>14%</b>
営業利益率	20%	<b>24%</b>	-
ストックビジネス比率	44%	<b>55%</b>	-

## 売上高 228億円

高いシェアを誇る認証製品群、セキュアアクセス製品群を中核に売上を拡大。  
主要製品のクラウド化を推進。

- FY25から22%増加
- CAGR 7%
- ストックビジネス比率 55%

## Soliton Zero Trust Solutionの推進

主力製品であるSoliton OneGateを軸に、機能・オプションの拡充を行い、顧客のニーズに合わせた多様なソリューションの提供

## ストックビジネスの推進

製品のクラウド化を進め、ストックビジネス比率を2025年44%から2028年には55%にまで押し上げる

## 営業利益 55億円

クラウドサービス化によりストックでの売上が増加、営業利益率も改善

- FY25から48%増加
- CAGR 14%
- 営業利益率 24%

高いセキュリティと運用性・コスト効率を両立する  
ゼロトラストソリューションを提供し、  
日本企業の抱える課題を解決します

### データ保護 (DLP)

端末にデータを残さない情報漏えい対策  
ブラウザを制御ポイントとするラストマイルDLPは  
管理が困難なサプライチェーン環境での統制に  
最適

### 運用最適化

ネットワーク認証とクラウド認証の両方に対応するだけでなく、  
レガシーとモダンが混在する日本企業特有の運用環境にフィット  
ゼロトラストへのスムーズな移行と、効率的なIT運用を強力に支援

### ゼロトラストの認証基盤

デジタル証明書を強みとした多要素認証  
(MFA) とレガシー環境にも対応可能な  
シングルサインオン (SSO)



### 成長ドライバー

- サイバー攻撃の深刻化
- サプライチェーン対策評価制度への対応<sup>※3</sup>
- 運用性・コスト効率の良さが争点に



### 差別化ポイント

- セキュリティ・運用性を両立した認証基盤
- サプライチェーン対応のデータ保護
- ゼロトラストの「現実解」を提供可能



2030年 国内市場

# 1兆円規模

- ゼロトラストセキュリティ市場 <sup>※1</sup>  
約7,782億円  
'25-'30 CAGR: 18.8%
- デスクトップ仮想化市場 <sup>※2</sup>  
約2,242億円(2030年推計)  
'26-'34 CAGR: 9.2%

<sup>※1</sup> 出典：Japan Zero Trust Security Market Size & Outlook, 2030 (1USD=160円換算)

<sup>※2</sup> 出典：Japan Desktop Virtualization Market Size & Forecast 2034 (1USD=160円換算)

<sup>※3</sup> 経済産業省・国家サイバー統括室による「サプライチェーン強化に向けたセキュリティ対策評価制度 (SCS対策評価制度)」は、2026年度末に運用開始予定。

サプライチェーンでも実運用可能な『認証強化』が求められている

### 後を絶たない「認証」を狙ったサイバー攻撃被害

- ランサムウェア攻撃は事業継続リスクに
- 大手企業でも、多要素認証（MFA）の不備を起因とした侵害が後を絶たない
- 攻撃耐性の高いMFAの導入が急務に

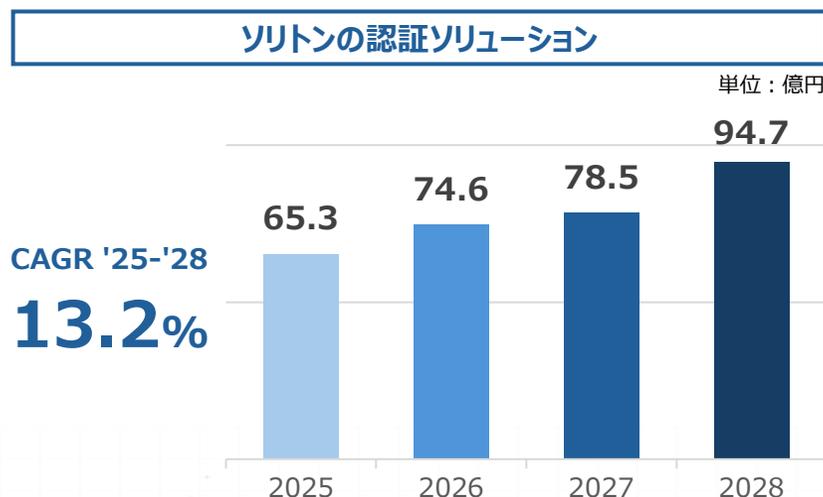
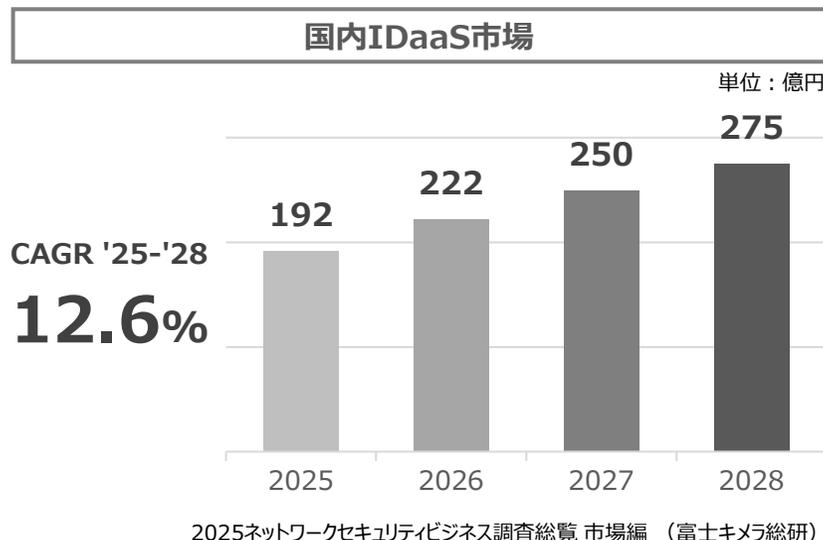
### サプライチェーン全体のセキュリティ強化が国家戦略に

- 経済産業省・国家サイバー統括室による「サプライチェーン強化に向けたセキュリティ対策評価制度」が2026年度に開始
- 多要素認証（MFA）等のセキュリティ対策が実質的な必須要件に



- ゼロトラストの第一歩となる「認証」強化で、サイバー攻撃対策を支援
- サプライチェーン環境にも柔軟に運用できる「多要素認証の現実解」
- NetAttest EPSや他社製品との連携強化で、日本企業のニーズに柔軟に対応

クラウド・ネットワーク両方に対応した **ゼロトラスト認証基盤**

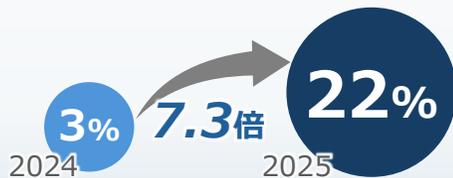


『ネットワーク境界を跨いだ業務アクセス』に変革が求められている



## 安全なVPN代替

- 日本のテレワーク環境で利用されるVPNが攻撃対象に  
VPN機器を含むエッジ機器を  
標的とした攻撃の割合

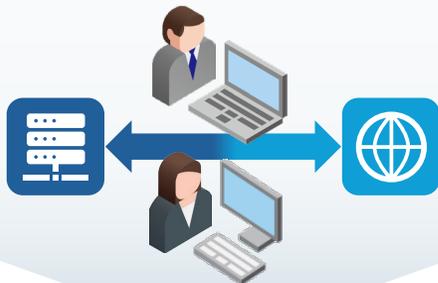


引用元：「Verizon 2025 Data Breach Investigations Report」



## 快適な分離環境

- 2030年『端末1人1台化』  
を見据えた「自治体ガイド  
ライン」の改定



## コスト効率の良さ

- VDI※1/DaaSベンダーの価格  
改定からコスト重視の見直し  
が加速  
VDI・DaaS導入企業の今後の  
見直し検討の余地



企業のリモートアクセスに関する実態調査レポート (ソリトンシステムズ 2025)

## Soliton SecureBrowser



## Soliton SecureWorkspace

- デジタル証明書による端末認証で業務システムへの安全なアクセスを実現
- FAT端末※2を「データレス化」することで利便性の確保とコスト圧縮を両立
- 「情報へのアクセス」と「データを渡さない」を両立し、サプライチェーン環境に柔軟に対応

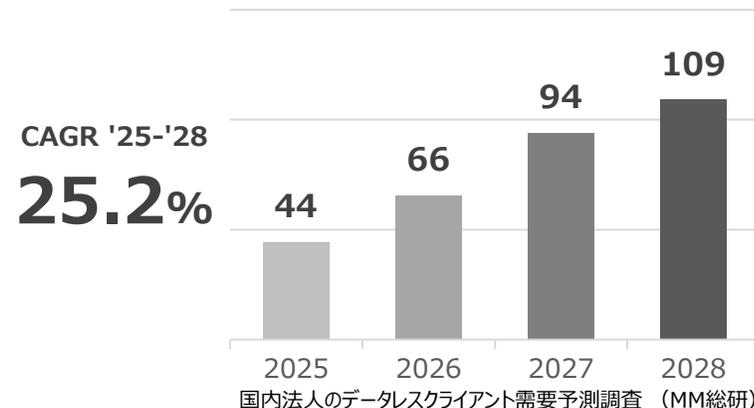
日本企業の分離・協業環境に最適な 安全な業務アクセス・データ保護

※1 Virtual Desktop Infrastructureの略、PCのデスクトップ環境を手元の端末ではなく、サーバー上で仮想的に動かし、ネットワーク経由で利用する仕組みのこと

※2 VDIで使われる処理機能を最小限に抑えたTHIN端末とは異なり、高い処理能力と機能を持たせたコンピュータ端末のこと

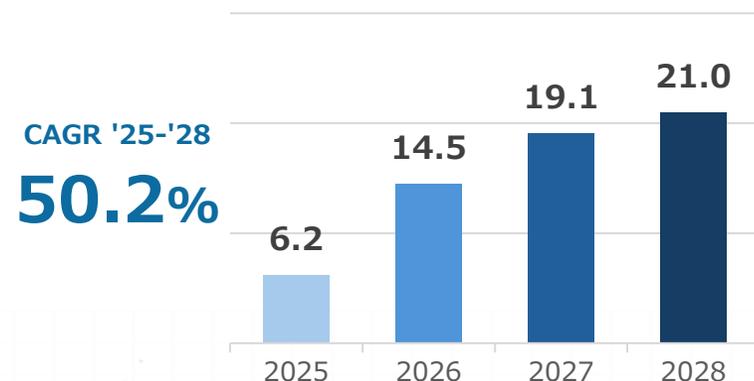
## 国内データレスクライアント市場

単位：億円



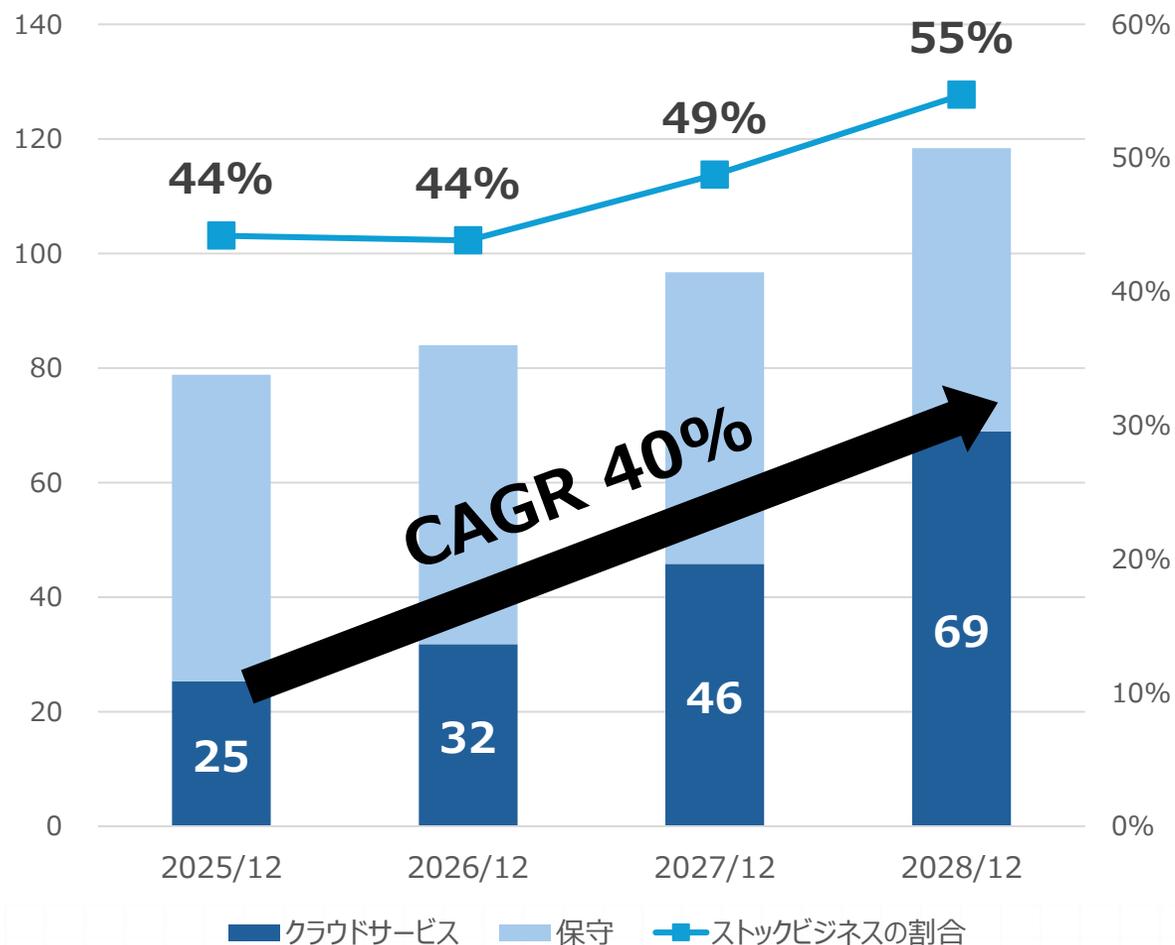
## ソリトンのセキュアアクセスソリューション

単位：億円



# 収益の安定化：ストックビジネスへの移行

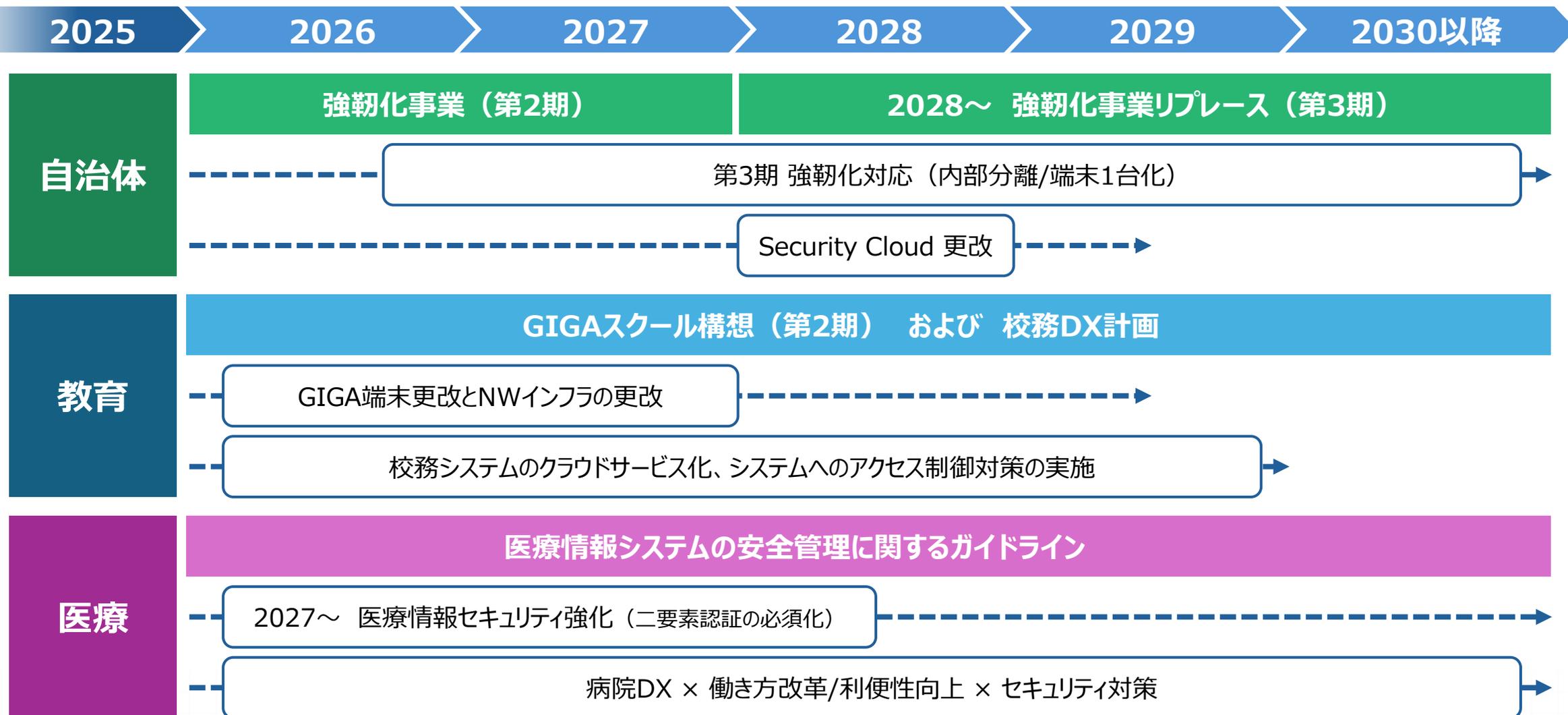
## ストック売上の予測



- 安定した収益を継続的に得る為、製品のクラウドサービス化を進め、保守売上を含めた「ストックビジネス」の割合を増やす取り組みを進めています。
- 最注力サービスであるOneGateを筆頭に、クラウドサービスの売上は順調に増加しています。今後3年間にクラウドサービス売上を、年平均40%で成長させる見込みです。
- この結果保守を含めた売り上げに占めるストックビジネスの比率を、44%から55%程度※に増加させていく計画です。

※ FY25時点の目標だった60%と異なりますが、これは防衛分野を中心とした大型の公共見込み案件が想定よりも増加した為です。これらの公共大型案件は5年以上の複数年契約となり、サブスクリプション型と同様の継続的な収益を見込んでおります。

## 今後の公共案件に影響する構想やガイドライン



# 売上と営業利益の予測

## 防衛・防災等、公共分野における取り組みと遠隔操縦技術の海外展開を強化

	実績 2025年	2028年	CAGR
売上高	10.5億円	16.5億円	16%
営業利益	△1.1億円※	1.7億円	-
営業利益率	-	10%	-

※ 2026年度よりセグメント損益の見直しを行う予定です。本社費用に含まれていた遠隔運転に関わる基礎研究が終わり、その技術を当事業に転用します。2026年度以降、当該開発に関わる費用は当セグメントに計上する予定です。今回は、2028年度との対比のため、開示した2025年度の実績に加減した数値をお示しております。

### 売上高 16.5億円

好調な公共分野でのシェア拡大と、遠隔操縦の用途拡大、海外展開の加速により事業の成長を加速する

- FY25から57%増加
- CAGR 16%

### 営業利益 1.7億円

オペレーションの効率・最適化を推進。売上拡大に伴い、収益性を改善

- 営業利益率 10%

クリティカルシチュエーション  
である公共分野での  
シェア拡大

遠隔操縦での  
用途拡大  
建機、自動運転支援等

海外展開の  
加速

売上拡大による収益性の改善

ソリューション  
(強み)

高精細  
短遅延

安定したネットワーク  
オンプレ・クラウド対応

LTE、5G、衛星等の  
無線に最適化

## 公共・安全分野

- 公共安全・防災分野  
現場映像を共有するニーズ
- オンプレミス・クラウドに対応し失敗が許されないミッションクリティカルな分野



上空LTE

市場規模  
約**20億円**※1



※1 国内のヘリコプターは約1,300機あると言われ、その半数に導入された場合の試算。ドローンタクシーが普及した場合、更に拡大する可能性も



技術・強み

### 安定的に短遅延の映像を 伝送する技術

独自開発 RASCOWプロトコル  
短遅延・マルチリンク伝送  
LTE、5G、衛星などの無線に最適化  
オンプレ・クラウド対応

## 海外市場

日本の実績を海外に横展開

- 公共・安全分野
- 遠隔操縦分野

## 遠隔操縦分野

建機

- 建設現場の自律・遠隔施工  
工場内の自動搬送
- 映像を見ながらの超遠隔操作が安全確実に可能



市場規模  
約**800億円**※2

※2 国内の油圧ショベルは約100万台あるとされ、その内1%に遠隔操縦システムが導入された場合の試算

自動運転向け遠隔システム



- 自動運転を遠隔から簡易な操作で走行支援できる遠隔型自動運転「遠隔アシスト」

# 売上と営業利益の予測

アナログエッジAIチップのローンチと量産・微細化に向けた投資およびマーケティングを継続

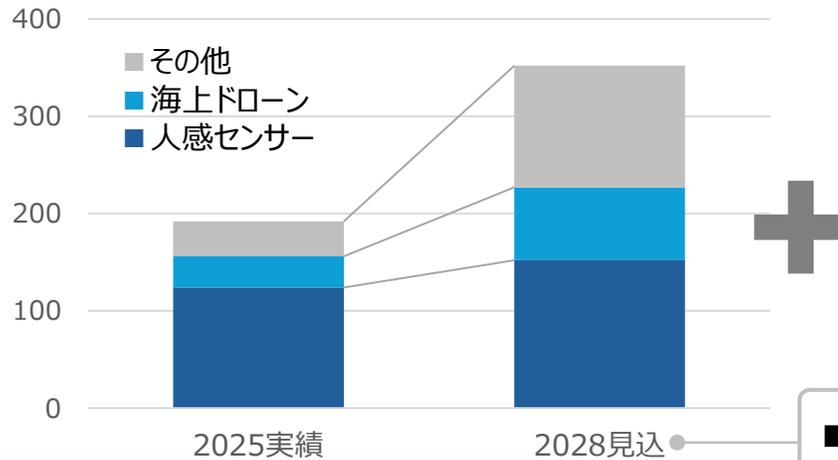
	実績 2025年	2028年	CAGR
売上高	1.9億円	3.5億円	22%
営業利益	△1.8億円	△1.6億円	-
営業利益率	-	-	-

売上高 3.5億円

海上ドローン等、新規事業の収益化  
それに加え、アナログエッジAIチップの収益化が実現  
したら、売上・収支の大幅な改善に

- FY25から83%増加
- CAGR 22%

2028年度までのブレイクスルー



アナログエッジAI  
チップの早期の  
収益化

営業利益 △1.6億円

アナログエッジAIチップの開発投資の為、赤字が継続、  
収益化が実現できれば黒字化も視野に

- 海上ドローンプロジェクトの昇華と横展開
- その他開発プロジェクトの推進

# アナログエッジAIチップのローンチ

## アナログエッジ AIチップ

### 特長

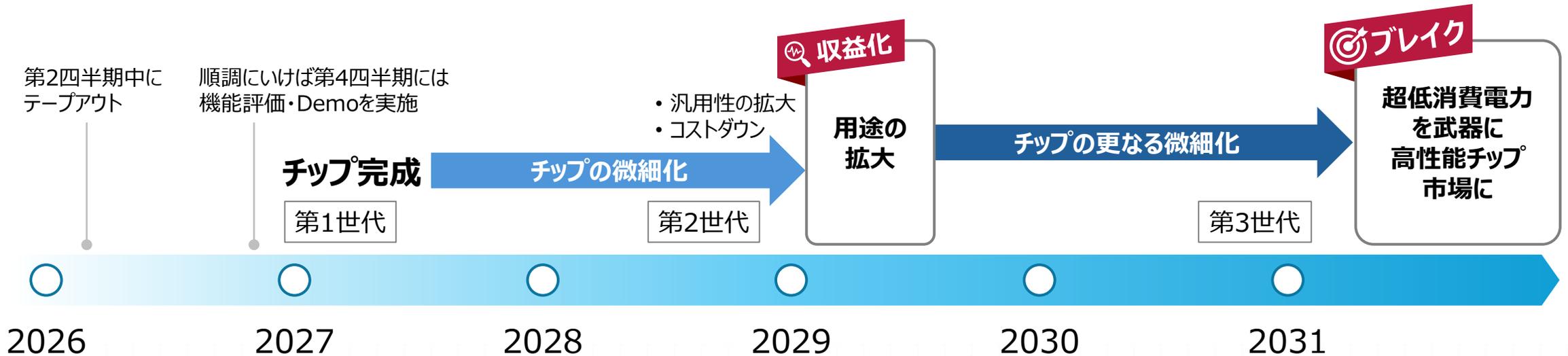
- 超低消費電力（数100uW※）
- 高速
- カスタマイズ可能
- 生成AIに対応

※ 一般的な組込み用のマイクロプロセッサ（デジタル）の消費電力は10～20mW、当チップは理論上1/100程度の消費電力で稼働ができる

### 用途

- 異常検知・インフラ監視
- 小型ドローン・ロボット制御
- ヘルスケア
- スマートホーム 等

以上は一部であり、幅広い用途に対応



## 海上ドローン



無線を使って水上で動くドローン船に指示を送ったり、状況を確認するシステムを構築

## ドローン船の構成の一例

- 衛星通信ができる「母船」
- ドローン向け通信機を持つ複数の「子機」

1つの母船と複数の子機のまとまりでクラスターを構成し、クラスター内で母船を中心に通信を行います。こうしたクラスターを複数展開することで、より広範囲をカバーできます。

## 防災

常時航行するドローン船で、海上データ取得が、広域かつ高頻度で行えるようになります。当社の高信頼通信技術により、潮位などのデータをリアルタイムで連続監視でき、沿岸から離れた海域でも津波の早期察知が可能になります。より迅速で確かな防災体制の構築を支えます。

## 保安

水上ドローンの活用は世界的に拡大しています。広大な海域を抱える日本では、安定した監視・モニタリング体制の構築が急務です。当社は、こうした社会的ニーズに応えるべく、海上ドローンの運用を支える高信頼通信技術の提供を通じて、革新的なソリューションの実現に取り組んでいます。

## 海洋資源

海洋インフラの拡大に伴い、海域の調査・モニタリングの需要が高まっています。当社は、海上ドローンの運用に不可欠となる高信頼な通信機器を提供し、“海の見える化”を強力にサポートします。これにより、広域・高精度の海洋監視を実現し、インフラの安全性と効率性向上に貢献します。

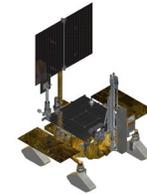
## 宇宙開発支援（長期プロジェクト）

## JAXA 宇宙探査イノベーションハブ

超低消費電力エッジAI学習チップおよび学習アルゴリズムに関する研究を継続しています。

## LUPEX ローバ 向け宇宙用FPGA設計

JAXAとインド宇宙研究機関（ISRO）が協働する「月極域探査機（LUPEX: Lunar Polar Exploration）プロジェクトにおける三菱重工業株式会社のLUPEXローバ開発において、LUPEXローバ向け画像航法アルゴリズムの宇宙用FPGA（Field Programmable Gate Array）への実装設計は第2フェーズに入りました。



©JAXA



©JAXA

JAXA 宇宙望遠鏡LAPYUTA計画  
宇宙用FPGA※設計の支援

※ 後から動作内容を書き換えられる半導体チップのこと

# Soliton<sup>®</sup>

## 株式会社ソリトンシステムズ

**【将来に関する記述等についてのご注意】**

本資料に記載している、今後の見通し、計画、経営目標等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する主旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。